

(様式第1号)

■ 会議録 □ 会議要旨

会議の名称	令和7年度第1回芦屋市市民参画協働推進会議			
日 時	令和7年4月24日(木) 午後2:00～4:00			
場 所	市役所東館3階災害対策本部会議室(中会議室)			
出席者	会 長 浅 見 雅 之 副会長 井 関 崇 博 委 員 松 井 順 子 出口 睦子 宮平 太 高 橋 洋 一 眞伏 しらべ			
事務局	企画部 市長公室 市民参画・協働推進課		部長 柏原 由紀 室長 伊藤 浩一 課長 山川 尚佳 係長 大西 貴和 係員 福井 香里 係員 槇野 開人	
会議の公開	■ 公開			
傍 聴 者 数	0人(公開又は一部公開の場合に記入すること。)			

1 会議次第

(1) 開会

(2) 議題

ア 第3次芦屋市市民参画協働推進計画の総括及びアンケート調査の結果報告について

イ 第5次芦屋市総合計画(後期基本計画)の施策目標について

(3) その他

(4) 閉会

2 提出資料

(1) 次第

(2) 委員名簿

(3) 資 料 1 第3次芦屋市市民参画協働推進計画の総括

(4) 資 料 2 アンケート結果報告

(5) 資 料 3 アンケート結果報告グラフ資料

(6) 資 料 4 第5次芦屋市総合計画(後期基本計画)施策目標11

(7) 参考資料 基本構想素案

3 審議内容

(浅見会長)

今日はこれまでの市民参画協働推進計画を振り返る作業と、総合計画に市民参画協働推進計画のエッセンス・魂をインストールするための議論を中心にしていくことになっております。

それでは、「議題1 第3次芦屋市市民参画協働推進計画の総括及びアンケート調査の結果報告」について、事務局より説明をお願いします。

ア 第3次芦屋市市民参画協働推進計画の総括及びアンケート調査の結果報告について

◆事務局より「第3次芦屋市市民参画協働推進計画の総括(資料1)」「アンケート調査の結果報告(資料2及び資料3)」に基づき説明。

(浅見会長)

第3次芦屋市市民参画協働推進計画の総括とアンケート調査の結果報告を事務局から説明いただきましたが、質問などあればお願いします。

(高橋委員)

これは実態を掴んでいるだけですよね。市民がこういう考え方でいるとか。こういう調査をしても進展性がないと思います。やはり具体的にアクションを起こしていかないと、市民の方もそういう気持ちにならないし、その結果出てきている答えがさっきの市民参画は公的な事業者が行うべきであるのかなのではないかと思います。後で深い議論があると思いますが。

(浅見会長)

次の計画をまとめる際に手ぶらでやるわけにはいかないので、前の結果がどうだったかを振り返ることは儀式としてもやらなければいけない。そういう積み上げだと思って見ていただいたらよいと思っています。

また、公的な事業は市がやるべきという意見はさらっと言いましたが、事態は深刻だなと感じました。その辺りは反省を込めて掘り下げた方がいいのかなと感じました。

(井関副会長)

それは市民参画・協働というものの理解が進んでないということなのではないでしょうか。だから、次の計画の話につながるとは思います、周知をこれからしていかなければいけないということで、課題としては情報発信という話になるのかと思います。

(高橋委員)

公的な事業も市民が参加したくなるものではないのだと思います。市民もいいものがあれば自分から参画します。例えば、この間のさくらまつりのように大きな仕掛けをすれば子供たちも喜んで行くわけですよ。そういう市との共通点か何か生まれていないのではないのでしょうか。それはものすごい問題だと思います。もう少し市の方も市民に歩み寄っていかないと。市民が喜んで自分から行くというのが本来の姿じゃないでしょうか。

参画といくら言っても、面白くない、興味がないとなれば、こういう開き直ったことを言う人もいるが、それはおかしいんですよね。土壌から変えていかないと僕は駄目だと思います。

(井関副会長)

芦屋市に社会的課題があり、その課題を解決するために、市役所は事業をしている。その市としての事業に参加する場合もあれば、それとは別に社会の課題なので、民間企業、自治会、あるいは個人が別に市に言われるまでもなく、自分たちの課題として取り組むということもあっていいわけですね。

その2つがあって、その区別や理解から進んでいないために、このアンケートでは混乱が出てきてしまっているということなのではと思います。この「市民参画・協働が必要だと思いますか」という質問自体が何のことを聞いているのかははっきり分からないために、こうなってしまういて、アンケートの設計の問題と言えなくもないので、この結果だけをもってどうこう言えないのではと感じています。

(浅見会長)

アンケートの設計の問題は、私も気になっています。ただ、定点観測で毎回同じ質問を繰り返すことの価値を考えると、なかなか言い方をころっと変えるのが難しいこともあります。

(事務局 大西)

事務局としては、定点で同じ聞き方をしないと大きく数字が変わってきてしまうため、同じものを聞きつつ、その次の設問で具体的な聞き方をするなど是可以するのではないかと考えています。

今回であれば、地域に根差した活動、地域にこだわらない活動と聞くと、そのイメージができずにしていないという回答が増えてパーセンテージが下がるといった事例もあったので、具体的に事例を示しておけば、もう少し変わってきたのかなと思っています。

(浅見会長)

そういう意味では、地域のお祭りやイベントに参加していますかという話も重要ですが、誰かが用意してくれたお祭りに参加するといった話だけが参画ではなく、むしろそちらは本質ではないわけで、そこをどうやって皆さんに理解していただくかは、結構な課題だと感じています。

(高橋委員)

実際に市民がやっていることは随分多く、環境のごみの問題や公園の清掃、防災、防犯もそうです。自治会が82団体ありますが、その中で防犯担当、防災担当がおり、まちを守っています。もちろんそれは市ともタイアップしていますが、ものすごく大きな市民の参画事業です。祭りなども、そこからコミュニケーションが始まるので必要ですが、やっぱり市民と行政が両輪でまわしていくのが本当の参画ではないでしょうか。

(浅見会長)

どのような姿を目指すのかという話になってくると思いますので、この話はこのぐらいにしますが、他にアンケートの中身などで気になることがあれば、ここでご発言いただければと思います。

1点、総合計画審議会の委員会でもちらっと話をしたような気がしますが、地域のイベントなどの取組がコロナを契機に一旦止まり、復活したものもありますという話をしてくださいました。私はこれをポジティブに捉えるべきだと思っていて、やらなくても誰も困らない、惰性でやっていたものをやめる良い機会だったのではないのでしょうか。要は、事業の棚卸しができたと理解し

たらよいのではと思っていて、どうしても必要なものは必ず復活してくるはずなので、地域の皆さんの意識と力は信じてもいいのかなと思っています。

止まってしまって復活しない、復活させられない地域が悪いという形で語られるのはどうかと思っているので、そのことは言っておきたいと思います。

これをきっかけに本当に何が必要なのか考え直してみる機会になると一番いいですが、そのきっかけになりきっていないところは問題かなと思っています。

(井関副会長)

総括ということですが、本来は計画の総括なので、この第3次計画でやったことに効果があったかどうか、効果がなかったとしたらそれはなぜなのかを総括する必要があります。

今回整理していただいたものはそれではなく、今どんな課題があるかということです。その2つは似て非なるものです。これからこの総括について、何か文章化される予定はあるのでしょうか。

(事務局 山川)

委員会資料として公表することを予定しています。

(井関副会長)

計画の総括だとすれば、やったことが課題の解決に寄与したのかどうか、していないとするとなぜなのかというところが総括だと思います。

情報発信や人のなり手不足であるとか、このアンケートに関しても現状であって、計画の総括とは違うのではと思っています。もし文章化をしていく予定があるのであれば、その視点で書いていただきたいと思います。

(事務局 山川)

令和6年度 of 取組状況を取りまとめる時期ですので、取りまとめる際に検討したいと思います。

(浅見会長)

最後に、計画を進行する中で見えてきた課題と書いてあり、結びがなぜこうなるのかと思っていましたが、井関先生の話でよくわかりました。反省は反省として先に話を進めましょう。

イ 第5次芦屋市総合計画(後期基本計画)の施策目標について

(浅見会長)

続いて、「議題2 第5次芦屋市総合計画(後期基本計画)の施策目標について」、事務局より説明をお願いします。

◆事務局より「第5次芦屋市総合計画(後期基本計画)施策目標11(資料4)」「基本構想素案(参考資料)」に基づき説明。

(浅見会長)

参考資料の方ですが、新しくできる後期基本計画の頭の方に掲載されて、総合計画のその部分がまだ固まっていないという理解でよいでしょうか。なので、私たちからこれだけは入れておきたいという意見があれば反映される可能性が高いということと、これでは駄目だと言う機会がまだもう1回あるということでしょうか。

(事務局 柏原)

5月2日に総合計画推進審議会があるので、その意見を踏まえ、修正箇所があれば、この場をまた設けさせていただければと考えています。参考資料の方はその後の作業になりまして、6月の下旬にこちらの会議を設けさせていただく予定ですが、そちらで総合計画ではこうなりますという形でお示しして、ご意見をいただこうと考えています。

(井関副会長)

これはすでに固まっているのでしょうか。

(事務局 山川)

これをベースに言葉の選び方などの修正が必要であればご意見をいただき、すぐに修正が

反映できるようでしたら、5月2日までに修正したいと考えています。

(井関副会長)

言葉の使い方についてですが、参考資料の裏面に書いてある市民参画、協働の2つの言葉と資料4には市民活動、地域づくり、まちづくりという言葉があり、その使い分けがしっかりとできているかどうか気になっています。本当に言葉だけの話ではありますが、行政として計画を作る場合はかなり厳密にその言葉の定義が説明できるようにした方が良いと思います。

条例でいうところの市民参画は、行政の施策に対して市民から意見を言ったり、実施に協力したり、評価の過程に参加するという意味で使っているんですね。そういう意味合いで資料4でも使われてるのかどうか。

それから、市民活動という言葉が、例えば、概要の1段落目に「社会的な市民活動や地域づくりにつながる取組」とあるように、社会的な市民活動と地域づくりが並列的に書かれていて、施策目標11-1-3では「地域の課題解決への自発的な市民活動を推進し」と書かれており、地域づくりがなくなっています。この地域づくりが、もし自治会の活動を意味するとすれば、自治会の活動がなくなってしまう。それぞれどういう意味合いで使ってるのかが少しわかりにくい感じがしましたが、そこはいかがでしょうか。

(事務局 山川)

まちづくりと地域づくりを厳密に使い分けできているわけではありません。まちづくりという言葉に関しては、市民参画推進計画ができたときに、市や地域をより良くすることを目的としたすべての行動と定義付けています。市民活動についても、しっかりした定義というのは持ち合わせていない状況です。

(井関副会長)

私は市民活動という言葉が気になっています。市民活動という言葉は一般には、ボランティア活動と近い理解がされているような気がしますが、ここでは民間事業者等の多様な主体が動いてと書かれており、民間事業者が意識されています。それは私としては大賛成なのですが、企業のいろんな社会課題解決の取り組みを市民活動とはあまり言わないのではないのでしょうか。

(事務局 山川)

計画では、市民の中に民間事業者や地域団体も含んでいます。

(井関副会長)

それでは、計画では、市民活動には企業の活動も自治会の活動も含まれているということでしょうか。

(事務局 山川)

はい。

(井関副会長)

計画に記載する必要はないと思いますが、言葉の相互関係がわかるような図を持っておいの方が良いと思います。それに基づいて文章を書けばすっきりすると思います。

(松井委員)

まちづくりと地域づくりという言葉について、行政によりますが、まちづくりは一般的に土木的なまちづくりのことを指していて、地域づくりは地域住民が主体的に課題を見つけつつ、解決し、それを行政や社協がサポートするといった概念が一般的にあります。芦屋市はまちづくりももっと大きいイメージで捉えているという理解でよいのでしょうか。

(浅見会長)

まちづくりの概念そのものが、いろんな人がいろんな使い方しているので複雑なことになっているのですが、いろんな使い方を見ていると、何か大きな概念と考えた方が説明がしやすい。

例えば、こども食堂のような活動もまちづくりだという人たちもいれば、トンネルを掘ったり、住宅地を作ったりすることもまちづくりだし、災害が起きたときにみんなで協力して助け合うことを防災まちづくりと呼んだりもしています。なので、まちづくりは地域をよくするために誰かが頑張っていれば、まちづくりという理解でいいんじゃないかと私は思っています。

(事務局 柏原)

芦屋市としても、土木関係だけがまちづくりではなく、先生がおっしゃっているように、広義的な意味でとらえていただければと思います。

(松井委員)

きちんと説明していただければそれで問題ないかと思います。

(事務局 柏原)

私たちもややこしいと思っています。きっちり規定がないまま使っているところは否めませんので、少し整理が必要かと思っています。

(井関副会長)

単に言葉上誤解が生まれるということではなく、これからのこの分野のすごく重要なポイントだと思います。主体を広げていかなきゃいけないという際に、直結する議論だと思います。

(事務局 柏原)

総合計画という芦屋市の一番上位の計画に位置付けとなり、他の政策分野とも横並びで見た際にぶれているところもあるかもしれないので、本日のご意見をヒントに整理をして、場合によっては先生方とお話をしながら、整理をしていきたいと思います。本日は宿題としてお預かりします。

(浅見会長)

まちづくりと地域づくり、市民活動でしょうか。

(井関副会長)

「地域の活動」と「居住する地域にとらわれない活動」の区別もつきにくいのではないのでしょうか。

(浅見会長)

福祉の分野でも地域という言葉はよく使われますが、福祉ではどのようなイメージで使われているのでしょうか。

(宮平委員)

松井委員がおっしゃっていたように土木関係も含めたものになるかと思うので、そういう意味では福祉で使う地域づくりはどちらかというと、人やソフト面なのかと思います。

(浅見会長)

地域という言葉単にエリアとして捉える捉え方と、エリアにいる人のネットワークとして捉える捉え方が混在しています。

(井関副会長)

地域福祉という言葉は行政がやる福祉に対して地域でやる福祉という意味なののでしょうか。

(宮平委員)

行政の施策や制度も全て含めて、地域に関わる場所は地域福祉としています。

(浅見会長)

今課題になっている「何かをしてあげる福祉」といったものは、担い手を増やしたとしても今後立ちいかなくなると思います。地域の方々同士で何とかしようとするのが今のメインストリームですが、そう言った瞬間に、その地域が地域のネットワークみたいな意味に変わってしまいます。福祉の行政マンや民生委員さんは、一人一人の面倒を見るのは上手ですが、人同士をつなぐのが不得手な人が多いので、実力をつける必要があると思います。それこそが地域づくりだと思います。

(事務局 柏原)

地域福祉の地域の範囲としては、小学校圏域も地域ですし、中学校圏域も地域です。ですが、まちづくりの範囲としては感覚的には芦屋市全体が相当すると思っています。あまり地域

の範囲を固めて議論することは難しいと感じます。

(浅見会長)

先ほどの話で言えば、トンネルを掘ったり橋を架けたりすることはまちづくりであっても、地域づくりと言いませんね。

(井関副会長)

活動は、主体、テーマ、範囲で成立しますが、例えば自治会、ボランティア団体など別々の主体が同じテーマで活動していて、もはや地域による活動と地域によらない活動が混在している状況です。活動範囲も、年によって変わることも大いにあります。

(事務局 柏原)

モノができたらといって地域づくりが進むわけではありません。それをどう活用していくかが重要だと思います。やっぱりキーになるのは人やつながりだと思いますので、イメージの共有はしておく必要があると思いました。

(浅見会長)

言葉の整理も含めて事務局の方で改めて検討いただきたいと思います。

(井関副会長)

11-1-2には「市民や地域活動」と、わざわざ市民活動と地域活動が並列で記載されています。昔ながらのフレームで自然な表現ではありますが、申し添えます。

「11-1-1 効果的な情報発信による市民参画・協働の理解促進」は、「効果的な情報発信による」は必要ないように思います。市民参画・協働の理解は必ずしも紙媒体やネット媒体による情報発信だけではなく、経験の共有や対話を通して促されるものなのではないでしょうか。

(事務局 柏原)

11-2は広報をはじめ市役所から情報発信という意味合いが強いですが、11-1は市民活動を進めるにあたっての市民同士の情報発信が含まれています。情報発信は大事なので、情報

発信と市民参画の理解促進は並列で表現したいと考えます。

(出口委員)

私も「効果的な情報発信による市民参画・協働の理解促進」という表現は気になっていて、効果的な情報発信と市民参画・協働の理解は、全く別物ではないかと感じています。もちろん、情報発信は、今とても大事で、それを求めている方が実際にリードあしやに來られているのは事実で、市民参画・協働の理解の場にもなっています。言葉にするのが難しいのですが、目的が少し違うように思います。

(高橋委員)

参画・協働の理解を促進するものは情報だけではなく、討論や懇談もあるので、「効果的な情報発信による」という表現はない方がいいと思います。11-1-2は活動支援の育成、11-1-3は仕組みづくりの推進と続くので、すっきりするのではないのでしょうか。

(井関副会長)

情報共有や情報発信は11-1-3に含まれます。上位の「11-1 多様な主体が協働してまちづくりを行える環境を整備します」を実現するために必要なものが、11-1-1、11-1-2、11-1-3で、目的と手段の関係になってることが重要で、より網羅的に整理される必要があります。環境を整備するためには連携が必要であるという大前提を理解することが必要なので、説明文書も情報発信だけではなく、出口委員の意見にあったように、やりとりの中でといったことも含むような、ワンフレーズを入れていただきたいです。

(眞伏委員)

11-1-1については、全く違和感がありません。理解促進のための最初の起点としての情報発信で、それを発揮されようとしているという期待もありました。ただ、「効果的な情報発信による」を敢えて入れる必要がないという皆さんの意見に反対しているのではなく、何らか言葉にすると実行になるので、ポイントとしては外さないで欲しいという思いがあります。

(浅見会長)

市民参画・協働の理解促進をしていくために発信していきます、という決意であると読めば読めないことはありません。

(事務局 柏原)

情報発信には、既に活動をされている方にもっと理解を深めていただくためのものと、これから関心を寄せていただくためのものがあります。市民参画・協働の理解を促進するのは、情報発信だけではないというご指摘はその通りです。「情報発信」はとても大切なので、11-1-1の説明文書の中に「情報発信」という言葉をしっかりと入れつつ、理解を深めていただきたいという一文に落としていきたいと思います。この点については委員の皆様からご提案をいただけると大変ありがたいです。

(井関副会長)

「これからの」という表現を追加するとよいと思います。たとえば、今までのような、ボランティアや自治会の活動がだんだん難しくなってきた中で、企業なども含めた「これからの」市民参画・協働の理解を進めていこうという書きぶりはいかがでしょう。

(事務局 柏原)

多様な主体で進めるということですね。

情報発信に関しては、市全体の課題で、総合計画審議会から様々なご意見をいただきますが、ほとんどやっていることです。情報発信ができていないということを理解してはいますが、なかなか難しいです。

(高橋委員)

進め方に何か足りないものがあるのではありませんか。言葉だけでなく、熱意や誠意も大事だと思います。

(事務局 柏原)

結果だけでなく過程も含めた発信をする必要があると思います。また、市と市民の方々の対話だけではなく、そこから市民同士の対話へ発展していくことも大事です。市民の皆様との対話

によって、何かが生まれます。高橋委員がおっしゃったさくらまつりは、市民の皆様が自主的に動かれています。

(井関副会長)

市長のタウンミーティングは11-1に入りますか？

(事務局 柏原)

直接は入りません。いろんな意味がありますので、一つの項目に割り当てることは難しい状況です。

(井関副会長)

「対話」がキーワードになっていると思います。参考資料の基本構想素案の「市民参画・協働が目指す未来」に、「対話を重ね、意見交換を行うことで、施策が実情に即したものとなり、地域課題の解決に向けた協力の輪が広がります」とあります。対話はまさに市長がされていることですが、「発信」という言葉では代えられないような気がしています。市長が今まで実施していた事業を整理する理由について丁寧に説明されている動画を拝見しました。その時にしっかり聞く、発信と聞くの両方があって対話という話もされていたので、「発信」だけで良いのかなと疑問を感じました。

(事務局 柏原)

市長は発信だけで市を捉えていないというのはその通りかと思います。複数の面から捉えています。

(井関副会長)

せっかくなので、そのニュアンスがしっかりとこの計画体系の一番上の階層で見える方がよいと思います。それこそ施策11のレベルに「対話」といったキーワードが入るとよいと思いますが、「市民参画」が入っていないのが気になります。

(事務局 伊藤)

総合計画では、「まちづくりの基本方針」のところで「対話」や「市民参画」についてに盛り込むことを考えています。

全体に行き渡る考え方として、市民参画・協働の計画も基本方針の方に入れて、しっかりと対応していきたいと思います。

(浅見会長)

市政そのものをどうやって動かしていくか、戦略についての大きな話は、施策目標より遥か上のレベルで語られるということですね。施策目標11-1では、市民の皆さん自らが地域に関わり、地域づくりをしていける環境を整えていきましょう、ということが戦術として記述されるという理解です。

情報発信については少し考えた方がよいです。市役所は、市民の質問に対して、よく「ホームページに載っていますから」と回答されますが、大変不親切な対応と感じます。伝えたことと、伝わったこととは同義ではないので、伝わるころまでをケアする必要があると思います。だから発信で終わってるのが行政の一番の弱点だと私は思っています。まさに対話が必要です。

指標の話をします。事前に事務局に申し上げましたが、アンケートに頼り切っているように感じるのです。アンケートの質問項目の書きぶりひとつで数パーセント動きそうなものに、指標を頼って良いものでしょうか。一方で、ずっと定点観測しているからこそ分かることがあると聞くと、その通りだと思うのですが、皆さんのご意見をお伺いしたいです。

(松井委員)

他の自治体を参考にされてはどうかと思います。具体的経過を調べるためには、私はアンケートという手法について一定の評価をしていますが、確かに指標はこれでよいのかと思っています。

そもそも「市民参画」という概念が、市民の中にないと思うのです。市民とコミュニティ、地域とコミュニティはどう違うのでしょうか。今、「地域づくり」という言葉が王道を走っていますが、「市民参画」について市民の皆さんは理解されているのでしょうか。また、協働が何を意味しているか、協働と共同はどう違うかなど、どの程度理解されているかも気になっています。

私自身、協働やつながりの必要性を感じ、活動を開始したら、意外と皆さんも同様の思いで

活動されているという実態がわかりました。しかし、つながる方法がわからないことが多く、旗振り役の人が必要なので、それを広げていくことは大事だと実感しています。

(事務局 山川)

他市の状況はあまり把握していません。会長、副会長、何か参考になるようなよい指標をご存知でしょうか。

(井関副会長)

設定されようとしている指標はかなり難しいものだと思います。アウトプットとアウトカムがありますが、地域の活動をする人が増えたかどうかというアウトカムの場合は、行政の施策以外の複数の要素が絡むので、これを指標にすることは非常に難しいと思います。一方、例えば、理解促進のための施策を年に何回行うといったアウトプットでの指標もあってもいいような気がします。ただ、それで効果があったかが重要という意見もありますので、完璧ではありません。

また、他施策がアウトカムレベルの指標を設定しているとする、揃える必要があるのではと思います。

(事務局 伊藤)

指標に関しては、総合計画でも個別計画でも多種多様なご意見をいただきます。どちらかというと、アウトカム系にウエイトを置いています。副会長がおっしゃる通り、取組の成果なのか他の外的要因によるのか正確な評価ができないことは悩ましい点です。

(浅見会長)

厳密な考え方も分からないではないですが、結果オーライという考え方もあります。結果的に、市民の生活が豊かになっているかどうか大事なので、失敗してうまくいかなかった、うまくいったといったことをフィードバックしながら、ブラッシュアップしていくことが重要ではないかと思います。

(事務局 柏原)

指標が全てではないと思います。総合計画の中では、たとえば、芦屋市に住んで豊かにな

った、良かったといったことは指標で表されないものです。KPIだけに頼らない評価があるべきですが、実際KPIは分かりやすいので活用例が多いです。

総合計画の10年計画のうち後期5年計画の場合は、前期からの継続性はある程度必要だと思っています。

たとえば、市民団体の活動については、芦屋市立あしや市民活動センター（リードあしや）である程度把握できるかと思いますが、いかがでしょうか。

（出口委員）

芦屋市に登録しているNPO団体数は把握しています。一方、登録していない市民活動団体は網羅できていませんが、少なくともリードあしやを起点に活動されている団体については把握しています。

（井関副会長）

指標なので、網羅する必要はないと思います。指標で下がったら全体数も下がっている可能性があるので、現状を把握する指標としては、十分な気がします。

（事務局 柏原）

社会教育登録団体などは、リードあしやを使用できない場合がありますし、活動でしかリードあしやを使用しない団体は登録をしていない可能性もあります。限定が必要だと思います。

（出口委員）

逆に言えば、リードあしやを使用していない団体でも、登録のみされている団体もあるでしょう。

（井関副会長）

網羅する必要はないと思います。例えば、市民活動団体が400あるとして、リードあしやの登録団体数が200だったら、指標として200を設定すれば問題ないように思います。数字が独り歩きする可能性があるので、その点は留意が必要です。

(事務局 柏原)

ありがとうございます。その指標が使えるかどうか調べたいと思います。前期との継続性もありますので、今回は使わないとしても今後の参考にさせていただきます。リードあしやからは毎年きちんと報告もいただいています。

(浅見会長)

ストックで数の積み上げを気にするより、フローを見た方がよいかもしれません。例えば、今年1年でリードあしやや地区集会所に初めて来た人が何人か、などです。

(出口委員)

リードあしやとしては、お時間をいただくことになりますが、新しい団体の使用状況は予約管理システムで把握できると思います。

(浅見会長)

積み上げたものの数だけ見ると、最初に積み上がった部分は評価されずにずっと蓄積されて、全く活動していなかったとしても数としてカウントされます

(事務局 柏原)

集会所はシステム化されていないことを申し添えておきます。

(浅見会長)

他に何かお気づきの点はありますでしょうか。井関副会長から、言葉の使い方や、市長のおっしゃっている対話を重ねるといったことについて言及がありましたが、皆さんからご意見のあった市民参画・協働に関する定義については、そのまま総合計画に反映されるかどうかは分かりません。私たちの思いとしては、こういったことを、総合計画の冒頭に掲げていただき、協働の概念あるいは対話を通じて、皆さん一人ひとりにご納得いただきながら市政を進めていきたいという市の姿勢、思いが記載されるとよいなと思います。

(宮平委員)

課題として現状の社会課題は記載されていますが、情報発信や、人手不足、なり手不足についても追記した方がよいと思います。ただ、スペースの問題があるので検討する必要があります。

(事務局 柏原)

施策目標11の課題のところに記載いたします。スペースについては問題ありません。

(出口委員)

概要に「つどい場」とありますが、このつどい場に参加してる方が考えた正式な名前は、「みんなのつどい場」です。2年前まで「市民のつどい場」でしたが、それだと芦屋市民しか参加できない印象が強いので、「みんなのつどい場」に変更しました。訂正をお願いいたします。

(事務局 柏原)

固有名詞については、正しく記載するようにいたします。

(浅見会長)

5月2日に開催される総合計画審議会での審議内容、結果の共有については、事務局と私に一任いただければと思います。

その他

今後の芦屋市市民参画協働推進会議スケジュールについて

第2回を6月26日(木)、第3回を10月29日(水)に開催する方向で調整。

(浅見会長)

以上をもちまして、本日の会議を終わります。ありがとうございました。

以上